大村さんに研究報告

県基金 助成10人が発表

「県大村智人材育成基金」を活用した昨年度の研究費助成対象者（後列）と、大村智北里大特別栄誉教授（前列中央）ら　＝ベルクラシック甲府

山梨科学アカデミー（前田秀一郎会長）は27日、ベルクラシック甲府で交流大会を開いた。ノーベル医学生理学賞を受賞した大村智・北里大特別栄誉教授＝韮崎市出身＝の名前を冠して、県が昨年設立した「県大村智人材育成基金」による初の助成対象となった若手研究者が、大村さんらを前に研究の成果を報告した。

成果報告では、昨年度に研究費補助の対象となった10人が発表。1人5分以内で、「概日時計によるアナフィラキシーショック制御機構の解明」「翻訳における言説構築の過程が文化形成に与える影響」など、自然科学分野や人文・社会科学分野での研究概要を説明した。

また、広島大大学院理学研究科の山本卓教授が「ゲノム編集の様々な分野での可能性」と題し、ゲノム編集の仕組みと応用の可能性について紹介する特別講演を行った。

第15回山梨科学アカデミー児童・生徒科学賞の表彰式もあり、高校部門として、甘利山の土壌環境調査に取り組む韮崎高環境科学部と、シラカンバ樹液を研究した山梨英和中高の自然科学部が表彰された。

第20、22回の山梨科学アカデミー奨励賞を受賞した山梨大大学院総合研究部の兼本大輔助教（第20回）、同部の鈴木俊二教授（第22回）、同大医学部の猪爪隆史講師（同）による講演もあった。〈山本文香〉